

甲状腺外科草子 28

華岡流外科入門

杉野 圭三

華岡青洲は和歌山に外科学を教えるための塾（春林軒）を開き、後に大阪に分校ともいえる合水堂を開設した。

春林軒塾

春林軒は医学校+診療所+住居を兼ねた設備であり、青洲の下に教授（教育担当）、執事（経営担当）、知事（管理担当）の3人を置き、その下に更に5人の塾頭をおいた。

青洲の弟子

華岡青洲の門下生は和歌山の春林軒と合水堂を含め 1861 名、青洲存命中の弟子は 994 名。通仙散による乳癌手術が当時の外科医に与えた衝撃がいかに大きかったかを物語る数字である。弟子の出身地は畿内、四国が多く、順位は紀伊 64、播磨 63、陸奥 40、備中 40、伊予 37、美濃 35、備前 34、阿波 33 などである。陸奥が多いのは、本間玄調（常陸出身、水戸家の侍医）などの影響が？



華岡青洲門人帖 入門願書（入門請負一札の事）

入門規定

入門に際して、身元引受人、入門願書（入門請負一札の事）、束脩（授業料）が必要。春林軒の束脩は不明だが、江戸時代の私塾では年間数万円から高いもので 20 万円程度と言われている（適塾は一両一分あまり）。弟子の人数、食費も考慮すると、実際にはもう少し費用が必要だったのかもかもしれない。

塾の掟と禁言

修業は一生の大事、油断せず一生懸命に他人から与えられようとせず、自分の事として励む。

毎朝八時に先生の所へ出仕し、一般の病氣、を珍しい病氣について十二時まで勉強する。

酒席、遊興の席での喧嘩、口論禁止。

患者接待は丁寧に行う。

女性患者の病室へ診療以外で出入り禁止。

習ったことを他にもらさない。

秘薬を簡単に使ってはならない。

金創の術を伝授されていない者は秘書を写してはならない。清掃し塾を清潔に保つこと、など。



春林軒塾掟

授業内容

内外治法（内科、外科）、金創治法（外傷治療）、産科奥術、整骨術など

罰則

布団むし、灌水（水をかける）、など

成業認定

特に定められた勉強期間はなく、青洲は「得ると得ざるとは、その人にあることに候らば」との言葉を残している。個々の才能や努力によって修業期間に差があり、修業が終わると成業（卒業）認定を「申語」、「矢言」として与え、弟子は外部に春林軒で習ったことを漏らさないという誓約書「奥伝誓約文の事」を提出した。生半可な知識の伝授は社会への害悪になるとの考えであろう。しかし、布団むしだけは勘弁していただきたいものである。



申語

矢言

奥伝誓約文の事

参考文献

上山英明。華岡青洲先生 その業績とひととなり。1999。

和歌山市立博物館。華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂。2012

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022年4月27日